

研修会参加報告

平成 29 年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 参加報告

----- 「全国高校サッカーインターハイ」に参加して 2 級審判員 足立 正輝 -----

7月28日から8月4日の間、宮城県で「2017年全国高校サッカーインターハイ」が開催されました。

今回、私は7月27日から31日の間、派遣審判員としてこの大会に参加してきました。「はばだけ世界へ 南東北総体2017～繋がる絆魅せよう僕らの若き力～」このテーマはサッカーだけではなく、2017年度に行われる全国高校総体の全体のテーマとなっています。このテーマを見た時に、スポーツはすごく魅力にあふれていると改めて感じました。

私達、審判員は大会開催より早く現地に集合し、大会に向けての研修会を行いました。



7月27日(木)「研修1日目」

12時15分	研修審判員集合
12時45分	開講式
13時00分	移動 松島フットボールセンター
13時30分	フィジカル座学 島田 Referee Physical Coach(三重県) 「水分補給」
15時00分	プラクティカルトレーニング 「副審としてのオフサイドの見極め」 八木あかね氏 「主審としてのポジショニングと視野の取り方」太田 ins 座学 「判定テスト」 小幡 ins
17時45分	移動 ホテル
19時00分	夕食
19時45分	競技規則テスト
20時45分	研修会終了

フィジカル座学では、島田さんに、熱中症予防にどのようにして水分補給をしたらいいか、講義をしていただきました。まず、熱中症には、「熱失神・熱けいれん・熱疲労・熱射病」と言った4種類の症状があり、これらにならないためには、いかに直腸温を冷やすかが大切です。試合前&運動前には、エネルギーとなる食事し、水分補給をすること、試合中&運動中には、ハイポトニック飲料を飲むことにより、体内に速やかに浸透していきます。試合後&運動後には、アミノ酸など摂取し筋肉、疲労回復を行います。私は、塩分チャージといった飲食、タブレットで塩分を摂取した気分でしたが、それでは足りていないことに学び、気づくことができました。試合前日だけではなく、日常生活から取り組み、「オフザピッチがオンザピッチを支える」これら学んだことを活かし、試合に向けてコンディションを整えていきたいと思います。

座学では、小幡さんに、判定について講義してもらいました。4人のグループに分かれて、12個の映像を見てグループディスカッションをしました。この映像では、ノーファウルかファウルか警告か退場なのかを話し合い、いろんな意見交換をすることができました。

プラクティカルトレーニングでは、「主審としてのポジショニングと視野の取り方」「副審としてのオフサイドの見極め」の2つのトレーニングをしました。副審では、どれだけ細かくステップができるか、上荒さんには、ボクシングのようなステップをイメージしてどれだけ素早く、横の移動ができるか、ラインキープがずれてもいかに落ち着いて判定ができるか、などたくさんの事を教えていただきました。主審では、左サイドからの攻防でクロスが上がるシーンを使い判定しました。クロスが上がる前の争点に意識しすぎて、中の状況、争点がわからなくなり、両方が見ることができるポジションと視野の確保に苦戦はしましたが、学ぶことができました。



7月28日(金)「研修2日目」

6時00分	モーニングトレーニング
6時30分	朝食
8時30分	移動 ひとめぼれスタジアム
9時30分	フィジカルトレーニング 島田 Referee Physical Coach 「腹圧を意識したランニング」 プラクティカルトレーニング 「副審としてのFKのオフサイドの見極め」八木あかね氏 「中盤での主審の動きとポジショニング」柏原 ins 座学 「動きとポジショニング」小幡 ins

1 3時30分	昼食
1 4時15分	プラクティカル振り返り / 座学まとめ 「2017/2018 競技規則の改正について」太田 ins
1 6時15分	移動 ホテル (1級審判員集合)
1 8時00分	夕食
1 9時00分	研修会 (全体研修) 上荒 ins 大会の競技運営上の注意、研修会テーマの発表
2 1時00分	研修会終了

フィジカルトレーニングを行いました。このフィジカルでは、腹式呼吸を使い腹圧を意識したトレーニングで、いろんな体勢となって腹圧を意識しました。これをベースにウォーク、ジョギング、ランニングを行い、姿勢、腹圧を意識しながら体を動かしました。ボールを使ってのトレーニング、最後に主審、副審に分かれて、アイコンタクトをしながらロングスプリントをやりました。

プラクティカルトレーニングでは、「副審としてのFKのオフサイドの見極め」「中盤での主審の動きとポジショニング」の2つのトレーニングをしました。副審では、1日目に学んだことを意識して取り組みました。その中でオフサイドだと思いフラグアップする時、八木さんに違うねと言われ、何が違うのかと思ったらDFがヘディングした時にほんの少し触ったそうです。私は、その細かなところまで判定ができず、「細かくその時のシーンを明白に覚える」、八木さんにアドバイスをいただきました。その場でビデオ分析もできたので良かったです。

座学では、小幡さんに講義してもらいました。4人グループに分かれて、映像を見てグループディスカッションを行いました。最後に各グループが発表を行い、質疑応答、意見交換をして、たくさんの意見が出てきた中、たくさんの引出しが増えました。

2017/2018 競技規則の改正の講義を聞き、2日間のプラクティカル・座学の振り返りを行いました。副審は、「ラインキープの時にラインに遅れているのに、無理してサイドステップでキープしに行くのではなく、まずはラインキープしに行くこと」、どのポジションをとり、争点を見ていくか、たくさんの選択肢をもうことが大切だと学びました。



6時00分	モーニングトレーニング
6時15分	朝食
6時45分	移動 各会場へ
9時30分	第1試合目
11時30分	第2試合目
13時30分	第3試合目
16時00分	移動 ホテル
18時00分	夕食
19時30分	研修会 (全体研修) 「ゲームの振り返り」相葉 ins
21時30分	研修会終了

夜の研修会では、1級審判員と共に今大会のテーマ《正しい判定に繋げる為の》「動きとポジション」をテーマに上荒さんに講義してもらいました。

大会の注意事項など、大会に向けて話をして、2日目の研修会が終了しました。

7月29日「研修3日目 開幕戦」

開幕戦、担当試合

11時30分キックオフ 日大藤沢 vs 一条 R 角田裕之氏 A1 志田翼氏 A2 足立正輝 4th 靱山智哉氏

ins 小幡真一郎氏

緊張はしましたが時間が進むにつれて緊張が解けていき、落ち着いて判定をすることができ、1、2日目に言われたことを意識し、余裕を持って判定、ラインキープ、ポジショニングを意識しました。反省会では、ラインキープもできており、落ち着いて判定ができていると言って頂きました。

研修会では、運営、各会場での出来事の報告を行った後に、1回戦で行われた試合を使い振り返り映像分析を行いました。良かった動き、悪かった動きの工夫改善点を隣の人達と話し合い、良かった点は継続できるように話し合い、今回担当した試合で意識したことを話し合い、この1回戦の試合を振り返りました。



7月30日「研修4日目 2回戦」

6時00分	モーニングトレーニング
6時15分	朝食
6時45分	移動 各会場へ
9時30分	第1試合目
11時30分	第2試合目
14時30分	移動 ホテル
16時00分	研修会「ゲームの振り返り」今村 ins、山本 ins
18時00分	研修会終了
19時00分	夕食

2回戦 担当試合

11時30分キックオフ 帝京第三 vs 岡山学芸館

R 原尾英祐氏 A1 堀善仁氏 A2 足立正輝 4th 渡部一弥氏 ins 柏原文二氏

この試合は、とても攻守の切り替えが早く、サイドステップだけでは追いつけない場面があり、クロスステップ、ショートスプリントなど細かなステップをいれ、ラインがずれないようにキープしました。攻守切り替えが早い試合展開でも常に冷静に考えて、行動、判定ができたので良かったと思います。反省会では、細かいステップ、ショートスプリントでラインキープができ、主審と良い協力ができていました。戻りオフサイドの選手をどこまで見て意識しているか、その選手がどうプレーに関わるのかを考える。アドバイスを頂きました。

研修会では、この2回戦で行われた試合を使い振り返り映像分析を行いました。主審、副審の協力で、正しく判定する為に、どうするかを話し合いました。

7月31日「研修5日目 3回戦」

6時00分	モーニングトレーニング
6時15分	朝食
6時45分	移動 各会場へ
9時30分	第1試合目
11時30分	第2試合目
14時30分	移動 ホテル 到着後 各自解散

3回戦 試合担当

9時30分キックオフ 尚志 vs 長崎総科大附

R 小野裕太氏 A1 岩崎創一氏 A2 金淵佑亮氏 4th 足立正輝 ins 柏原文二氏

主審が試合に集中できるように、全力尽くし、試合中はA1 とともに話し合い、良い協力ができましたが、ベンチに目をやりすぎて、主審のアディショナルの表示を見落としかけたので、次は起こらないようにしたいと思います。反省会では、ベンチコントロールに行くとき、監督、コーチに話しかける時の姿勢を指摘していただきました。

私は、初めてインターハイ派遣審判に選ばれ緊張がありましたがとても楽しく、この研修会では、得られたものがたくさんあり充実した5日間を過ごすことができました。高校生のトップレベルの試合を担当することができ、自分にとって大きな経験をすることができ、多くの課題を見つける事ができました。ここで学んだことを自分の審判スキルに加え、今後の審判活動に活かしていきたいです。

最後になりましたが、このような素晴らしい研修会に参加する機会を与えて頂き本当にありがとうございます。日本サッカー協会、宮城県サッカー協会、兵庫県サッカー協会、並びに大会関係者には、本当にお世話になりました。ありがとうございます。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



「はばだけ世界へ 南東北総体 2017 年に参加して」 2 級審判員 金淵佑亮

はじめに、インターハイという素晴らしい大会に派遣していただき本当にありがとうございました。
日本サッカー協会、兵庫県サッカー協会並びにお世話になった大会関係者の方々に御礼申し上げます。
U-22 審判員として、宮城県で開催された平成 29 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技【男子の部】に 7 月 27 日（木）から 7 月 31 日（月）の 5 日間参加させていただきましたので、報告をさせていただきます。

7 月 27 日（木）【1 日目】

フィジカル座学では、三重県のフィットネスインストラクターの島田氏より水分補給のことについての講義がありました。

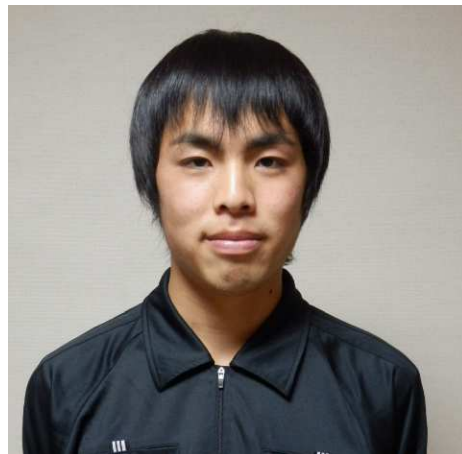
熱中症には、4 つの症状があり、いかに直腸温を水分によって冷ますのが大事ということを学びました。

『考え方』—激運動はスポーツドリンク、日常生活は水。
『ポイント』—①5~15℃②発汗減の 70-80%は水分補給③飲む量は 1 回 300ml ということです。激運動では、塩分 2.5%以下のハイポトニック飲料で水分補給をすることにより、腸にスッと入り直腸温を冷まします。90 分間の試合では 3g の塩が抜けますが、なかなかスポーツドリンクやタブレットでは回復できません。この夏、どのように水分補給や塩分補給をするか、試合日までの睡眠・トレーニング（暑熱順化）・生活環境などが各自考える必要があると感じました。オフザピッチを充実させることは改めて大切なことだと感じました。

プラクティカルトレーニングでは、主審のポジショニングとオフサイドについてやりました。ポジショニングでは、左サイドからパスが出る際に争点ばかりみると中の争点が見られない、または遅れるので、左サイドを捨てる時の判断も大切だと思いました。オフサイドでは、目の移し方、ステップワーク、守備側選手の足の運びを見るなどの工夫をすることをしていくことが良い判定に繋がると感じました。

座学では、アイスブレイクの後に 3~4 人 1 組で 12 個の映像を見てディスカッションをしました。映像を見て正解や不正解を確認することも大事ですが、大事なのはディスカッションをして人の意見を聞くということを学びました。

夜は、初めての試みということで PC やスマートフォンを用いた競技規則テストを行いました。競技規則を一言一句覚えることがテストにも生きますし、試合中に自分を助けてくれるものだと感じました。



7月28日（金） 【2日目】

初めにフィジカルトレーニングを行いました。ここでのポイントは腹式呼吸『腹圧』です。寝転んで色々な体勢になりながら腹式呼吸をします。これを意識しながらウォーク・ジョグを行った後、グループでボールを使ったパス回しや最後にはピッチ全体を使ったロングスプリントのメニューを行いました。

座学では、4人1グループで1つの映像（動きとポジショニング）についてディスカッションをして、最後に他のグループに発表をして質疑応答などのやり取りをしました。ここで学んだことは、複数の可能性を考える・チャレンジして失敗するという事です。その後、プラクティカルトレーニングでは、『主審のポジション』『オフサイド』をやりました。1日目より実践的な内容になり、前の日に学んだことを生かしながら、次の日の割り当てに向けてトレーニングを行うことができました。

昼食を挟んだ後に、競技規則改正の解説と2日間のプラクティカル・座学の振り返りが行われました。改正のポイントは、翻訳をしやすくするという観点に基づいた改正で、違反という言葉がなくなり反則だけになったこと、競技規則の明確化です。振り返りでは、オフサイドでは、ラインに遅れているのに無理にサイドステップをするのではなく、まずは最終ラインに合わせにいくということ、主審のポジションでは、レフリーサイドで1つの方に注意すると右側の状況が見えず、遠くなるのでアフターがないのなら先にスタートするということを確認しました。選択肢はたくさん持つことが大切だと感じました。

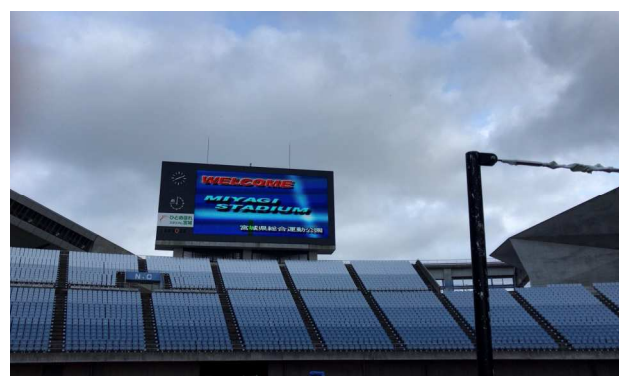
夜の研修では、1級審判員の方が合流しましたので、改めてインストラクターの方の自己紹介や監督会議での確認事項、運営上の諸注意、今大会のターゲット（正しい判定に繋げるためのポジショニング）が確認されて、2日目は終了しました。

7月29日（土）【3日目】

担当試合

1回戦 13:30KO 山形中央高校 vs 関東第一高校
@みやぎ生協めぐみ野サッカー場 B
R 金淵佑亮 A1 坂本晋悟 A2 岡田司
4th 芳賀勇人 ins 岸賢治氏

主審の割り当てを頂くことができました。試合前までは緊張していましたが、副審の方に『楽しんで』と言葉をかけて頂き、緊張を解くことができ、試合を楽しむことができました。反省会では、判定で2回エツというのがあったので精度を上げていくこと。動きは、状況を考え情報を取りやろうとしていたのは伝わったという言葉を受け、PA内の動きは良かったので、これからも継続して欲しいという言葉を受けました。ファウル数を少なくする方法として、注意は全体にする工夫をしなければならぬと感じました。



研修会では、運営上の注意点や各会場からの報告を行った後に、この日の映像分析を行いました。最初に、この日の試合で意識したことを話しあい、3つの映像の良い例と悪い例を見てディスカッションしました。ゲームの最初から監視しようとする姿勢が大事だと思いました。

7月30日(日)【4日目】

担当試合

2回戦 11:30KO 丸岡高校 vs 阪南大学付属高校
@仙台市泉サッカー場

R 山下良美 A1 松本康之 A2 金淵佑亮
4th 平賀玄太 ins 上荒敬二氏

余裕を持ってオフサイドなどの判定をすること、周りを見ることを意識しました。反省会では、ラインキープはOKで特にサポートする場面もなく問題なかったという言葉を受けました。レフリーの方へのアドバイスで印象に残ったのは、動きとポジショニングを良くするためにはサッカーのテクニカルな面を勉強しようというものでした。私もやっていかなければならないなと痛感しました。

研修会では初の試みということで夜ではなく、16時から始まりました。前日同様に、運営上の注意点や各会場からの報告を行いました。この日の報告で勉強になったのは、アディショナルタイム時に勝っている側がコーナーでキープする際のレフリーとアシスタントレフリーのポジショニングです。レフリーとアシスタントレフリーの見る所を変える、攻撃側のファウルをあえて見つけにくいなどの工夫が必要だと感じました。映像分析では、この日の試合の映像を見て、ディスカッションしながら進めていきました。

7月31日(月)【5日目】

担当試合

3回戦 9:30KO 尚志高校 vs 長崎総合科学大学付属高校 @ひとめぼれスタジアム宮城

R 小野裕太 A1 岩崎創一 A2 金淵佑亮 4th 足立正輝 ins 柏原文二氏

最終日も割り当てを受けました。前日と同じ課題を持ちながらやりました。ワンタッチがあった際は、レフリーにメッセージを伝えられており、ファウルサポートやスプリントは良かったという言葉を受けました。レフリーの方へのアドバイスで印象に残ったのは、ボールがゴールラインの平行まで来たらPA内に入ろうというものでした。私自身も実践していきたいです。

【まとめ】

私にとって2年連続2回目のインターハイで、派遣が決まった際からこの大会に向けて常に準備をしてきた中で、昨年に続き1回戦での主審の割り当てを頂くことができたのはとても良かったです。昨年より余裕を持ち、試合を楽しみながらコントロールできたのは1年間で成長できた所だと感じております。また、2回戦と3回戦でも副審の割り当てを頂くことができ、3日間とも高校のトップレベルの試合に携われ、非常に充実した5日間となりました。

普段の試合でも当たり前ですが、いつも責任を持って試合に臨まなければいけないと改めて思いました。今回の経験をまずは後期の審判活動に繋げて、より良いものにしたいと考えています。

最後になりましたが、今大会でお世話になった役員の方々、大会前までトレーニング会・競技規則テストなどを準備して下さった兵庫県サッカー協会の方々には感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



平成 29 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

～繋がる絆 魅せよう僕らの若き力～

報告者：2級審判員 堀 善仁

1.はじめに

この度宮城県で開催された「平成 29 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（以下、インターハイ）」に審判員として参加させていただきました。

研修審判員として、大会に派遣していただいた兵庫県高体連、兵庫県サッカー協会審判委員会、並びに大会運営をしていただいた関係者の方々に感謝しております。ありがとうございました。



2.研修について

フィジカル理論「水分補給」 島田 Referee Physical Coach（三重県）

夏場の試合において、重要な水分補給について「何を、いつ、どのように飲んだら良いのか」を教えていただきました。

サッカーは最大心拍数の 75%～100%の心拍数になるほどの激しいスポーツです。また夏場に激しい運動を行う人は直腸温（腸の温度）が 38 度になっており、人間が死亡してしまう 42 度に近づいています。そのような中水分を取らなければ、熱中症になってしまいます。

熱中症は、熱失神→熱けいれん→熱疲労→熱射病の 4 つに分類され、立ちくらみやめまいといった軽度の症状から、意識がなくなる重度の症状まで様々あります。熱中症にならないように、直腸温を下げるためにも水分補給は重要だということでした。

水分補給のポイントは 3 つ

①アイソトニック、②ハイポトニック、③塩です。

アイソトニックは、体液にほぼ近い浸透圧を持つ飲み物を飲むということです。運動前にエネルギーを補充するのに適しているということでした。

ハイポトニックは、早く腸に届いて、直腸温を下げる効果があるらしく、運動中や運動直後に飲むのに適しているということでした。例えば、1L 汗をかいたとして、塩分 3g 程度が体外へ出て行きます。ほっておくと熱けいれんが起きてしまうので、塩分の補給が必要になるということでした。

予防	試合当日	試合中	ハーフタイム	試合後
起床時心拍数を測る。 体重を測る 体温や血圧 自覚的コンディション（体調）	保冷容器の準備 飲み物の用意	飲めるタイミングで積極的に飲む	足底部を冷やすなどのケアを忘れない。	食事よりもエネルギー補給 ハイポトニック飲料で水分補給

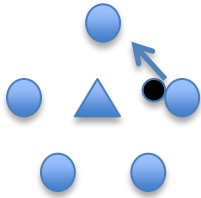
※ 起床時心拍数については、交換神経と副交感神経のバランスを見るために必要で、交感神経は緊張状態の時によく働き、心拍数が上がっていると疲れが溜まっていることがわかる。

フィジカルトレーニング「腹圧」 島田 Referee Physical Coach (三重県)

①腹式呼吸(お腹が膨らむような呼吸)を意識して、深呼吸する。

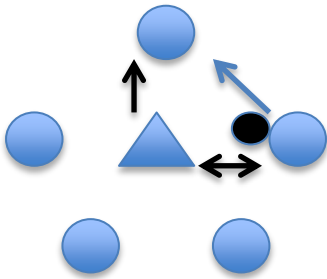
②腹圧を意識しながら、歩いたり、ジョグをしたり、ボールを使ってパス回しをしたりする。

③パス回し1



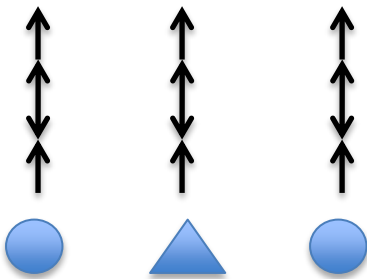
パスが回る時に▲の Ref は、
体の向き、スペース、周りの状況、ボール
を意識しながら動く。

④パス回し2



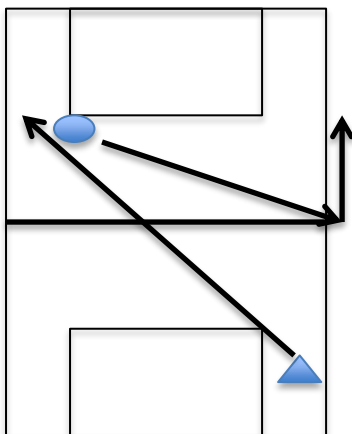
パスが回る時に▲の Ref は、
細かいダッシュを使って、ボール保持者にタッチし
てから、真ん中に戻り、次にボールが渡った所に
タッチをする。

⑤ラインキープ

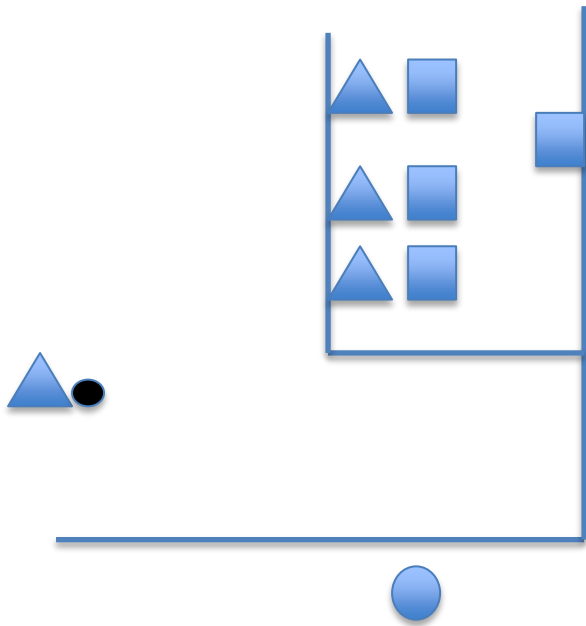


Ref 役の▲が走りながら、前後にステップを踏む。
●が AR 役になり、▲の動きに合わせてサイドステ
ップでオフサイドラインをキープするように、移動
する。
※サイドステップでラインがキープできない時には、
スプリントを使いラインキープを優先する。

⑥スプリント (全速走)



Ref 役の▲は試合での対角線を意識して、全速走で
反対側の PA の角まで走る。
AR 役の●は、まずは対角のハーフウェーラインとタ
ッチラインの交点まで走り、その後ハーフウェーラ
インを越えた Ref 役の▲に追いつくようにラインキ
ープをする。



▲が攻撃側競技者、攻撃側競技者のFK時のオフサイドの見極めをする。
オフサイドポジションにどの攻撃側競技者がいたか、誰がプレーを妨害したのか、相手競技者を妨害したのか、その位置にいることによって利益を得たのかを正しいポジションで見極める。

・フィジカル理論とフィジカルトレーニングの感想

今回、夏場の全国大会ということもあって、水分補給について学んだ。私自身夏場になると水分を取らなければいけないという思いはあるものの、何をどのタイミングで飲んだらいいのか等の知識はなかった。今回の講義を受け、どのような成分の飲み物なのかを確認することも大切だと感じた。

フィジカル理論では、ショートダッシュやスプリント、サイドステップ等の動きをする際に「腹圧」を意識することを学んだ。腹圧を意識することで、姿勢も整い、スプリントをかける時にも体や視線のブレが少なくなると感じた。

・プラクティカルトレーニングの感想

今回のテーマ「正しい判定につなげるための動きとポジショニング」を意識した。主審パートでは、中盤からゴール前までの動きと体の向きを意識し、ゴール前で行われる事象を判定する。ボールがサイドにある時に、サイドの攻撃側競技者がフリーであれば、そこに100%意識を集中するのではなく、ゴール前も見ることができる位置に移動したり、体の向きを変えたりすることができる。

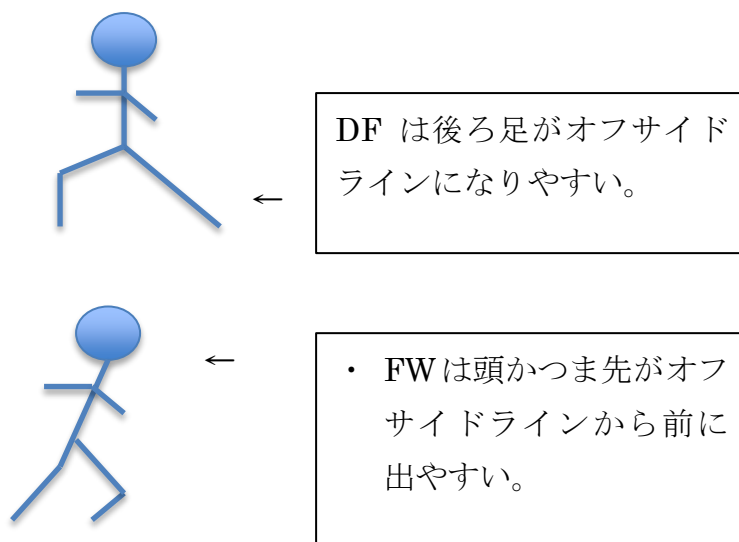
副審パートでは、国際副審八木あかね氏からオフサイドの見極めを学んだ。オフサイドラインキープをするために、サイドステップだけではなく、時にはスプリントも使って、正しいポジションをとる。そしてボールが蹴られた瞬間のオフサイドラインを記憶することが重要だと感じた。相手競技者を妨害するオフサイドについては、ボール以外の所で起こることもあり、部分（オフサイドポジションの競技者）を見ながら、全体を見ることも大切だということ学んだ。

「ルールの改正」太田 ins

- ・ 競技規則に書かれている「ユース」というのは、原則 16 歳未満の競技者である。
- ・ 監督がメディカルスタッフを兼ねており、その監督が退席となった場合の対応としては、監督としての指示は出さずに、テクニカルエリアにいることを許可する。
- ・ 決定的な得点機会の阻止か大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止するという反則かという見極めについては、以下の考慮点を組み合わせて判定する。
 - ①PA 内か、PA 外か
 - ②ボールにプレーしようとしたか、ボールにプレーする可能性がなかったか

「プラクティカルトレーニングの振り返り」柏原 ins、八木 ins、

- ・ 副審として、オフサイドラインをキープする時には細かいステップを使う。
- ・ オフサイドラインをキープできない時は、スプリントで合わせて、正対する。
- ・



- ・ 主審としては、Ref サイドだけではなく、全体を見る意識を持つ。
1つの場所を9：1で見ないようにする。

「座学の振り返り」小幡 ins

ファウルを判定する際、「具体性」と「細分生」を意識する。

→詳しく、細かく「どこが、どこに、どのように」接触したのか。



試合の振り返り

- ・ 1日目 富山第一高校 対 日章学園高校 副審1：堀 善仁 脇山 ins
ベンチコントロール：判定に対して声が出るベンチ、副審は主審にどう伝えるか。
ベンチマナーは自分だけ言われていても構わないという考えで対応しない。
このような大会では、審判員全体のイメージダウンに繋がる。
予期予測：雨で水が浮いているフィールドでどんなサッカーが展開されるか考える。
- ・ 2日目 帝京第三高校 対 岡山学芸館高校 副審1：堀 善仁 柏原 ins
ゴールラインを出そうなボールやゴールキック時のスプリントはしっかりできていた。
頭を打って倒れている競技者がおり、旗をあげて主審に伝えた。
→高校生は痛くても頑張っけて試合に出ようとする。長く倒れている競技者については、主審が負傷の程度を確認するのではなく、チームのメディカルスタッフを入れて判断した方が良い。
- ・ 3日目 広島市立広島観音高校 対 関東第一高校 第4の審判員：堀 善仁 辺見 ins
自分のやるべきことの優先権を考える。
負傷による交代では、チームはなるべく早く交代を行いたいと考える。そういうチームの考えを理解し、交代の手続きをなるべく早くする。

全体のまとめ、感想

大会期間中、色々な所で宮城県の運営の方が手厚くサポートしていただいている姿を見ました。本来ならば自分たちでやらなければいけないことも、大会成功のためと宮城県の運営の方々に手伝っていただきました。このような恵まれた環境が当たり前ではないという思いを持つよう初日に話がありました。再度自分の心に刻みたいと思います。

今回のテーマである「正しい判定につなげるための動きやポジショニング」について、全体の振り返りの時に映像をいくつか見ました。動きやポジショニングが良くても、正しい判定ができない場面もありました。適切な位置で「何を」見ようとするのかを、もっと競技者の様子を見ながら考えなければいけないと思いました。

今回、第4の審判員を担当させていただき、その中で自分には「気づき」が足りないと思うことがありました。今自分は何をすべきなのか、チームは何を考えているのか、主審のコントロールをサポートするために、何が必要なのかといった「気づき」をもっともっと考えなければいけない。第4の審判員の難しさを改めて感じました。

最後に、今回の総体へ派遣を決めていただいた兵庫県サッカー協会、並びに兵庫県の高体連の皆様、そして宮城県の運営の方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。